2016 夏休みすいせん図書
～本の森へ～

中学生

西東京市図書館

「ピートのスケートレース―第二次世界大戦下のオランダで―」

ルイーズ・ボーデン 作　ニキ・ダリー 絵　ふなとよし子 訳／福音館書店

オランダに住むピート・ヤンセンは10歳。凍った運河をスケートですべるのが大好きで、夢は有名なスケートレース「エルフステーデントホト」に参加すること。そんなピートに、冬のある日重大な仕事がまかせられた。ドイツに占領されているオランダから、友だちふたりをベルギーへ送りとどけること。３人は氷の上をスケートですべった。スケートの歴史もわかるよ。

「ABC!曙第二中学校放送部」

市川朔久子 著／講談社

中３のみさとが所属するのは、曙第二中学校放送部。部員は機材オタクの部長、古場とたった２人。このままでは廃部になってしまう。顧問の須貝先生は新入部員を勧誘しようとはりきっているが、なかなか興味を持ってもらえない。そんな時、みさとのクラスに美少女の葉月が転校して来た。葉月は放送部経験者らしいが無口でだれともつるまない。

「鉄のしぶきがはねる」

まはら三桃 著／講談社

三郷心は北九州工業高校の一年生。家は三郷金属工業という工場だったが、今はもうない。腕の良い旋盤工だった祖父が起こした工場が心は大好きだったが、人の手はコンピュータにはかなわないと思い、進路は電子機械科を選んだ。ところが、文化祭の手伝いをしているうちに、自分の中の旋盤への思いに気づき、「ものづくりコンテスト」をめざすことにする。

「狐笛のかなた」

上橋菜穂子 作　白井弓子 画／理論社

人の心の声が聞こえる＜聞き耳＞の力を持つ小夜。十二歳のある日、彼女は犬に追われる子狐をたすけた。子狐は、おそろしい呪者に術をかけられ＜使い魔＞にされた霊狐・野火だった。そして、犬から小夜と野火をかくまってくれたのが、森陰屋敷に閉じこめられている少年・小春丸。幼い日に出会った彼らは、数年後、憎みあう国同士の争いに巻き込まれていく。

「八月の暑さのなかで―ホラー短編集―」

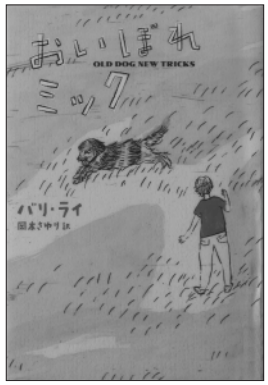
金原瑞人 編訳／岩波書店

英米文学の中から怖い話を集めたアンソロジー。

怖いと言っても、スプラッタではないので安心してください。不気味な世界を楽しんだり、最後にゾクッとしたり、怖さの中に、どこかさみしさを感じたり。ちょっとビターな13編を収録しています。この夏は物語の中で、ヒヤリとした涼しさを楽しんでみませんか？

「おいぼれミック」

バリ・ライ 著　岡本さゆり 訳／あすなろ書房



物語の舞台は、イギリスのレスターという町。移民が多い町で、主人公ハーヴェイの一家もインド系の移民だ。ハーヴェイが、はじめてミックに会ったのは、引っ越してきた夜のこと。隣の家の住民ミックは、人種差別主義のとんでもなく感じの悪いじいさんだった。そんなある日、ハーヴェイはミックの飼い犬ネルソンと仲良くなった。

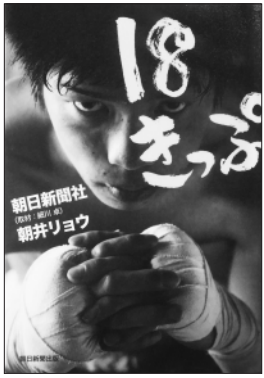
「クリストファーの魔法の旅―大魔法使いクレストマンシー―」

ダイアナ・ウィン・ジョーンズ 作　田中薫子 訳　佐竹美保 絵／徳間書店

クレストマンシーとは、世界の魔法の使われ方を監督する、大魔法使いの称号。主人公のクリストファーは幼いころから、別世界へ旅する力を持っていた。彼の強い魔力に気づいた伯父は、それを悪用し始める。でも、目覚めている時のクリストファーは魔法が使えなかった。魔法がいりみだれる、読み出したら止まらないファンタジーです。

「18きっぷ」

朝日新聞社 著　朝井リョウ 著／朝日新聞出版



あなたはこれから、たくさんの困難を乗り越え、人生を歩んでいくことになります。生きている限り、数々の困難がある中で、「人生の選択」というものがあります。どこの高校に行こうか、どこの大学に行こうか。

何かを選択して生きていくことを怖く感じたときは、この本にヒントがあるはずです。18歳の選択をした先輩たちの話を読んでみませんか？

「お城へ行こう!」

萩原さちこ 著／岩波書店

みなさんは、お城に行ったことがありますか？お城というと「歴史好きな人」が行くところ… というイメージがありますが、この本の著者は言います。「初めから難しく考えず、まずはお城を訪れて魅力を感じてください。」と。

この本では、お城大好きな著者が、お城めぐりの魅力と楽しみ方、知っているとお城めぐりが10倍楽しくなる、予備知識を解説。「さあ！お城へ行こう！」